

日本心臓リハビリテーション学会 第6・7回東海支部地方会

第6回会長 大手 信之（名古屋市立大学医学部附属 東部医療センター 病院長）

第7回会長 岩瀬 三紀（トヨタ記念病院 病院長）

会期 2021年11月27日(土)

会場 名古屋国際会議場2号館

〒456-0036 名古屋市熱田区熱田西町1番1号
TEL 052-683-7711

ご挨拶



日本心臓リハビリテーション学会第6回東海支部地方会
名古屋市立大学医学部附属 東部医療センター 病院長
会長 大手 信之

本来であれば、昨年11月に予定しておりました日本心臓リハビリテーション学会第6回東海支部地方会がコロナ禍のために中止となり、改めましてこのたび第7回東海支部地方会（岩瀬三紀会長）と併催させていただくことを大変うれしく存じております。

昨年初頭からのCovid-19感染症の蔓延は、我々の社会生活は言うに及ばず、学術的活動にも大きな影響を及ぼし、多くの学術集会が地方会から国際学会レベルの広い範囲で中止、延期、あるいはweb開催となりました。医療に従事するすべての職種の人々が、その状況にフラストレーションを感じてきたと思います。今回の地方会では、感染予防に最大限の配慮をしながら名古屋国際会議場において現地開催を行います。やはり現在の状況下ではソーシャルディスタンスを確保しなければならず、なかなかフリーディスカッションが行えるまでには至らないと思いますが、久しぶりに所属施設を超えた関係者が一堂に会して顔の見える学会を実感していただくことを希望いたします。ご参集、何卒宜しくお願い申し上げます。

さて、心臓病治療は正に日進月歩であり、新しい治療薬やデバイスが次々に導入され、予後改善に寄与していることはエビデンスベースで確立しておりますが、例えば左室駆出率の維持された心不全(HFpEF)の予後改善については一部の治療薬の有効性が確認されましたが、臨床的実感は今なお unmet need と言わざるを得ません。この病態の治療を考えるにあたって、日常の運動（活動性）や栄養状態の管理が重要なことは述べるまでもなく、先進治療を日常生活への介入が補完するのか？あるいは、日常生活維持への介入が基本であって、それを先進医療が補完するのか？という命題を実感いたします。もちろんこれらは背反するものでないことは理解しています。

心臓リハビリはエビデンスに基づいた日常生活のマネジメントを通じて、心臓病患者の予後やQOLの改善を図る極めて重要かつ基本の治療学であると考えます。本地方会に於きましても、この視点に立った演題が多数発表されます。この会におきまして学び得た情報が皆さまの日常臨床の一助になりますことを切に期待しております。

ご挨拶



日本心臓リハビリテーション学会第7回東海支部地方会
トヨタ記念病院 病院長
会長 岩瀬 三紀

2021年11月27日（土曜日）、名古屋国際会議場にて日本心臓リハビリテーション学会第6回および第7回合同東海支部地方会を開催します。2019年に岐阜で開催された第5回地方会以来、2年ぶりの開催です。

昨年は新型コロナウイルス感染症流行の波が繰り返し、第6回東海支部地方会が大手先生のご英断により次年度に延期となりました。今回、私は第7回会長を拝命していましたが、山田東海支部長らと協議し、第6回および第7回東海支部地方会の合同開催を決定しました。しかし、今年に入ってから流行の波は何度もわが国を襲い、8月には津波ともいえる深刻な第5波が到来し、重症患者数が確保病床を大幅に超える緊張状況が続きました。医療従事者から始まったワクチン接種は順調に普及し、抗体カクテル療法の導入や内服薬の開発の進捗も順調のようです。新型コロナウイルスの診療はイゼンし、今回の開催に至りました。ご協力をいただいた皆様に、心より感謝を申し上げます。

本会のテーマは、『地域医療における心臓リハビリテーションの展開』です。特別講演を藤田医科大学の井澤英夫教授にお願いし、『循環器病基本法と心臓リハビリテーション』のご講演を賜ります。第4、5回地方会では看護師交流会を実施しましたが、今回は岐阜総合医療センター看護師の石原さんの発案でチーム医療セッションを設けました。そのテーマは『包括的心臓リハビリテーション コメディカル役割』であり、最近改訂されたガイドラインの理解も深めながらの多職種による議論の盛り上がりを期待します。今回はコロナ禍にもかかわらず、予想を上回る45題の一般演題応募を頂き、大手先生とも喜んでおります。まさに『疾風に勁草を知る』です。疾風とは強く吹く風、勁草とは強い風に耐える強い草のこと。困難や試練に直面時に初めて、人間としての価値が分かることの喩えです。トヨタ自動車の豊田英二さんが社長当時、新工場を苦勞して立ち上げた際に自ら工場を見て回り、その際に管理職を集めて、この言葉をかけてねぎらったといわれています。新興感染症の爆発的流行という未曾有の「疾風」に対し、勇気と誇りをもって立ち向かっている皆様は、間違いなく「勁草」です。本大会を通じて、各施設の取り組みや知見を共有するとともに、勁草たる参加者の皆様が響き合う機会となれば幸いです。